

### 第3回茂原市学校再編計画審議会 会議概要

1 日時 平成28年12月14日(水) 15時00分～17時00分

2 場所 茂原市役所9階901・902会議室

3 出席委員 12名

足立委員、永山委員、石黒委員、吉井委員、宮本委員、北田委員、  
狩野委員、小柳委員、中山委員、齊田委員、酒井委員、林委員  
(欠席なし)

4 出席職員

教育長	内田 達也
教育部長	中村 光一
教育部次長	豊田 実
学校教育課長	古山 幹夫
教育総務課長	麻生 新太郎
教育総務課主幹	中村 一之
学校教育課長補佐	鶴岡 嘉孝
学校教育課係長	野口 栄孝
教育総務課副主査	沼 崇之

5 傍聴者 4名

豊田教育部次長 : (配付資料の確認)

それでは、ただいまから第3回茂原市学校再編計画審議会を開会いたします。皆さまには、ご多用の中ご出席をいただきまして、ありがとうございます。

本日の会議から、基本計画案についての具体的な協議に入っております。委員の皆さまには、率直なご意見をいただきたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

それでは、足立会長からご挨拶をお願いいたします。

会長 : 皆さんこんにちは。お寒い中、またお足元の悪い中、会議に出席いただきまして誠にありがとうございます。

今回3回目となりますけれども、1回目2回目と同じように慎重審議をお願いしたいと思います。

先日、12月7日の千葉日報に、大多喜中学校と西中学校が統合するという記事が載っておりました。これで大多喜町は中学校が1校になるということでございます。読んでいて驚いたんですけど、対象となった学校が2008年に新築されているんですね。なおかつ、一番遠くから通う生徒が20キロと。どうするんだと思ったんですけども、これから考えていくようでございます。

同じ日に、大多喜町が県内で初めて中学生の無料給食をやるという記事も載っております。お土産付きなのかなという感じもしたんですけど、そんなこともございます。茂原市はどうなっていくかわかりませんが、皆さん方のご意見を拝聴したいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

豊田教育部次長 : ありがとうございます。本日、内田教育長が出席しておりますので、教育長からごあいさつを申し上げます。

内田教育長 : こんにちは。第3回の学校再編計画審議会ということで、皆さんお忙し

い中お集まりいただきまして、本当にありがとうございます。

いま会長さんからも大多喜の話がありました。1回目の時に私も話したと思いますが、この長生地域も、長柄とか長南とか睦沢とか、色々なところで統廃合をしています。

1回目の審議会では、色々なデータについての説明が主だったと思います。2回目については、私は出席できなかったんですが、基本計画の骨子についてご意見をいただいたと伺っています。今回3回目は、いよいよ基本計画についての話になってくると思います。教育委員会としては、皆さまからいただく答申が、この後の実施計画や、統廃合について考えるときの拠り所にするものになると思います。

この間の議会でも、ある地域の議員さんから、学校は私たちの地域の核なんだからぜひとも残してもらいたいというお話もありました。教育長の意見はどうかと聞かれまして、先生の地元に寄せる熱意に敬意を表しますが、色々な声を聴きながら話を良い方向にもっていきたい、その際に教育委員会の立場としては、やはり子どものことを第一に考えるということをご理解くださいという話をしたところです。

皆さま色々な立場でこの会に臨んでいただいております。今後そういう話が出てきたときの拠り所となるのが基本計画であると思いますので、それぞれの立場で色々な意見を出していただいて、全市的なものとして今後の拠り所となる基本計画としてまとめられるよう、真摯なご意見をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

豊田教育部次長 : ありがとうございます。  
それではこれより審議を進めてまいりますので、足立会長に進行をお願いいたします。

会長(議長) : それでは、3の報告から順次進行してまいります。  
3の(1)「第2回審議会での意見交換の概要について」、事務局より説明をお願いいたします。麻生課長。

麻生教育総務課長 : 資料1をご覧ください。この資料は、前回の審議会でも皆さまからいただいた意見の概要を、表にまとめたものです。これをもとに、後ほど説明いたします「学校再編の考え方について」、事務局で素案を作りました。  
委員の皆さまには、概ねこの内容で合っているか、あるいは大事なことが不足していないかご確認いただきたいと思います。以上です。

会長(議長) : ありがとうございます。  
本日は質疑を1つずつ行っていききたいと思います。ただいまの報告(1)について、事務局で主なものをまとめていただいたと思いますけれども、これについて、委員の皆さまから何かあればお願いいたします。はい。

委員 : 資料1で皆さんの意見を読んでいて、新たに思ったことがあるので述べてもよろしいでしょうか。

児童生徒が減少していく中、統廃合の実施は避けることのできない現実だと思います。統廃合の計画を進めていくうえで、〇〇委員が言われました一小一中の問題を打開するためにも、〇〇委員が言われたように全体的な見直し、これをしながらも、〇〇委員の言われた学区の見直しは必要不可欠だと思います。

しかしながら、統廃合というマイナスのイメージだけにとらわれず、ポジティブに考えることも必要かなと思いました。一小一中のマイナスイメージの逆発想をいたしまして、良い面はないかと考えたときに思い浮かんだのが小中一貫教育です。茂原市ではまだ導入されてはおりませんが、学校再編を余儀なくされている現状においては、導入を計画する好機ではないかと思います。

小中一貫校のメリットとしましては、教育面からみれば、文字通り小学校から中学校までの9年間の教育方針を一貫できます。子どもたちの面からみれば、中学校へ進学した際に被る中一ショックの解消もしくは緩和への期待、また学力面においても独自のカリキュラムを取り入れて、例えば小学校の段階で英語を取り入れたり、主に中学校で行われている教科担任制を取り入れたり、教科ごとに専門の教員が教壇に立てば、子どもたちの

学力向上にも寄与できると思います。

統廃合というマイナスイメージの中、小中一貫校というのは、話題性に富みポジティブに捉えることができるかもしれません。ピンチをチャンスにではないのですが、新しい試みにより可能性を見出す、そのような検討をしてもよいのではないかと私は思いました。改めて追加いたします。

会長(議長) : はい、ありがとうございます。どのように追加いたしましょうか。はい、麻生課長。

麻生教育総務課長 : ありがとうございます。実はこの後に説明する予定でしたけれども、資料2の15ページをご覧ください。学校再編の基本方針、後ほど議論していただきますが、この(2)統合校の環境の充実の中で、小中一貫教育の検討と記載してあります。

これまで審議会で一度も小中一貫校の話は出たことがないのに申し訳ありませんが、いま委員がおっしゃったように、統合というと割とマイナスイメージで捉えがちです。ではポジティブに考えた場合にどういったものがあるか検討していく中で、施設の改修・改築を優先的に行うとかもそうですが、新たな試みとして小中一貫校を、やるとは言い切れませんがとりあえず検討してもよいのではないかという意見が内部でありました。そこで、唐突ですが案に入れさせていただいて、この後で議論していただければと考えておりました。

今日たまたま委員からも言っていたいただきましたので、非常にありがたく思います。後ほど検討していただきたいと思いますのでよろしく願いいたします。

会長(議長) : はい、どうぞ。

副会長 : 委員さんがおっしゃった内容はよく理解できます。ただ、統廃合がマイナスのような発言が気になるのですが。

委員 : そう捉える人は多いのかなと。

副会長 : そういうことであれば分かりました。他所でも小中一貫教育をやっているところがあってすごいなと思いますが、何かやろうとするとメリット・デメリットが、多い少ないはともかく必ず出てきます。先ほど課長がおっしゃった15ページの議論の中でもんでいければいいと思います。それにしても素晴らしい意見だと思いました。

会長(議長) : ありがとうございます。資料1に付け加えるのではなく、15ページの議論の中で話していくということでもよろしいでしょうか。

委員 : はい。

会長(議長) : それでは発言者のご理解もいただきましたので、後ほど話の中で出てくると思いますが皆さんよろしく願いいたします。

他にございますか。また後で何かあれば付け加えていただければと思います。それでは、続いて報告(2)「保護者アンケートの結果について」、事務局より説明を求めます。麻生課長。

麻生教育総務課長 : それでは、保護者アンケートの結果について報告させていただきます。本日お配りしました追加資料をご覧ください。

実施概要ですが、対象は公立小中学校の児童生徒の全保護者です。実施期間は、先日の審議会の後、11月21日から11月30日で、各学校を通じて配付・回収しております。配付数は小中あわせて6,377、提出数3,715、回答率は58.3%です。

回答率について補足いたしますが、同じ学校に兄弟姉妹がいる場合、学校側で1家庭1枚になるように配付していただいたり、小中学校に通う子どもが複数いる家庭が、どちらかの学校に1枚だけ提出したりということを伺っております。それを考えますと実質の回答率はもう少し高いと考えられますので、意見の傾向が十分把握できたものと考えております。

続きまして、設問ごとの集計結果を簡単に説明いたします。

Q2ですが、小規模校の統廃合に対する考えとして、6割以上の方が1番の「やむを得ない」としており、2番の「積極的に統廃合すべき」という方と合わせ、約7割の方が統廃合について前向きに考えていただいていると分析しております。ただ、3番の「できるだけ統廃合は避けるべき」

も約2割おりますので、こういった声にこれからどのように対応していくのかも重要になってくるかと思えます。

Q3とQ4は、それぞれ「統廃合される場合に心配な点」と「配慮してほしいこと」ですが、学校までの距離や通学時間、通学手段が圧倒的に多く、委員の皆さまに前回意見交換していただいた内容と同じであると考えております。

なお、結果につきましては、全保護者に対しお礼文とあわせてお渡しいたします。以上です。

会長(議長) : ありがとうございます。これについて、委員の皆さまから何かあれば承ります。副会長。

副会長 : これは子どもがいま学校に通っている親を対象に行ったものですね。私は、統合については、現在学校に通ってようがいまいが、茂原市民として考えるべきだと思うんです。そういう人たちがどう考えるのか、あるいはこれから小学校に入る子どもを持っている親御さんは、すぐ目の前に来ているわけですが、そういう方々の気持ちはどう把握していったらよいのかということをおっしゃったんですが、もしこんな方法でカバーできるというのがあればおっしゃって下さい。

会長(議長) : はい、麻生課長。

麻生教育総務課長 : 基本計画の策定については、1月に素案を策定した後にパブリックコメントで市民の意見を募集することを考えております。特にそれ以外にアンケートとか意見集約するとかは考えておりません。

この基本計画ができた後は、計画についての住民説明を行います。来年度から具体的な学校名や統廃合の時期を挙げた実施計画の話が出てきますと、地域の皆さん、対象地域の保護者の皆さん、これから学校に入ることの保護者の方々、そういった意見も集約しなければならないと考えております。具体的にいつどのような形で説明会をやるかは決めておりませんが、今後審議会の中でも意見いただければ、それに沿って市民の意見を吸い上げてまいりたいと考えております。以上です。

会長(議長) : 他にご質問ある方いらっしゃいますか。はい。

委員 : Q2で「統廃合はやむを得ない」としている率が、緑ヶ丘小では44.9%、「避けるべき」というのが39.3%、西陵中だとそれらが同じ割合になっています。資料で、29年度だったと思いますが、西陵中の場合は選択制をやめるか継続するかという方向がはっきり出ているのにもかかわらずこうなっているということは、やはり保護者は統廃合することを悩んでいる、揺れていると思うので、やむを得ないという状況をできるだけ住民の皆さんに知らせるということ盛り込んでいければよいと思います。

会長(議長) : はい、ありがとうございます。他にいらっしゃいますか。はい。

委員 : アンケートの中で、学校の人数とかクラスの数とか全部は書かれてなかったもので、ちょっと調べました。人数が少ない新治小学校をサンプル的にあげますと、2014年は、1年生が5人、2年生が10人、3年生が7人、4年生が3人、5年生が7人、6年生が6人、それで3年生と4年生が1つの部屋で同時に勉強を教わると。1人の先生が教えるので、3年生4年生の分を同時に用意しています。用意する分が倍になるんですね。

会長(議長) : 委員さん、いまは保護者のアンケートのことを承りますので、申し訳ないですが、そのお話は後の議題の中でいただければと思います。

他にいらっしゃいますか。ちなみに、これ以外に自由意見を書くところがあったと思いますが、何か書かれたものがございましたか。はい。

沼教育総務課副主査 : 集計を担当していますが、自由意見を書かれた方は、学校によって数は違いますけれどもたくさんいらっしゃいます。これについては傾向が非常に多岐にわたりますので、これと別途に集計中ということでご理解いただきたいと思えます。

会長(議長) : それではまた集計が出たらお願いしたいと思えます。報告(2)についてはよろしいでしょうか。

では先に進んで議題に入ります。議題の(1)「学校再編基本計画(案)について」、前回と同じように意見交換を行います。最初に事務局より説

- 明をお願いいたします。
- 麻生教育総務課長 : それでは、資料2の再編計画(案)に関する意見交換について、説明いたします。
- 配付した意見交換シートに沿って皆さまから意見をいただきますが、まず資料2の計画案全体を簡単に説明いたします。
- 2ページの目次をご覧ください。計画のつくりといたしまして、ローマ数字のⅠ章とⅡ章、それからⅢ章の前半部分で、計画策定の趣旨や茂原市の現状、学校の適正規模などの説明が入ります。その後の、14ページから16ページ、学校再編の考え方や基本方針になりますが、これが最も重要な部分になると考えております。
- 17ページ以降のⅣ章は、それ以外の資料を添付するものです。
- なお、9ページと10ページをご覧ください。学校の位置図ですが、いま茂原市で新しい地図システムを導入しておりますので、その中で学区を分かりやすく示せると考えておりますので、間に合えば来月審議会までと思っております。
- 以上、①については、計画全体の構成についてご意見があれば伺いたいと思います。
- 続きまして、14ページをご覧ください。こちらは、どういう点を重視して再編に取り組むのかということをもとめたものです。先ほどの資料1にありました、皆さまに前回意見交換していただいた内容を盛り込んでおります。意見交換シートの②では、さらに入れるべきことがあるか、訂正や抹消した方がよいところはあるか、議論していただければと思います。
- 続きまして、15ページをお願いいたします。こちらが計画の本題である基本方針です。事務局のイメージとしては、このように3つの柱を立てて、それぞれ文章で補足しようと考えております。意見交換シート③で、この柱やその下の文章で、こういうことを盛り込むべきといったご意見を伺えればと思います。以上です。
- 会長(議長) : はい、ありがとうございます。
- それでは、いま説明がございました、①から③についてご意見をお伺いしたいと思います。全員からご意見を伺いたいと思います。特に順番は定めませんので、①から③どれでも、ご意見がある部分のみで結構ですから、意見のまとまった方から挙手をお願いいたします。はい。
- 委員 : 学校再編の考え方で「(2)再編にあたっての配慮」の中に、災害時の避難所としての配慮という項目があります。
- その前に確認させていただきたいんですが、資料1で4の方が避難所のことに触れています。〇〇さんから〇〇さんまでの3人は、今まで避難所とされていた学校がなくなる、防災拠点がなくなる、そうすると困るよね、というようなご意見でよろしいですね。〇〇委員さんの意見は、会議録を見ると、新しく統合される学校のことですか。
- 委員 : 具体的に名前を出して申し訳ないですが、鶴枝小と中の島小が近いわけです。児童数としては中の島のほうが多くて、平成52年になっても大丈夫なくらいいますけど、統合されたら多い方に行くとすると、中の島になるのではないかという懸念があります。
- というのは、中の島小は災害時の避難所ですけど、かつて水没したということもあります。ただ人数が多い方に吸い込まれるということではなく、どちらの校舎を使うのがいいかということを考えていただければと思って言いました。
- 委員 : 一般住民の避難ではなく子どもたちの避難という観点でのお話ですか。
- 委員 : いえ、両方です。
- 委員 : 私はこの避難所としての配慮はカットしてもいいと思うんです。なぜかと言いますと、その後に学校跡地の活用方法の検討とあります。学校跡地というと、校舎は壊しちゃうとも読めます。じゃあ施設はどうなるのかと。ここは「学校施設及び跡地の利活用」とか、施設という文句を残したいと思います。避難所がなくなるわけですけど、例えば体育館とかを残すというような方法もあるわけですよ。あるいはどこか他に、新たに(避難所

を) 作るのか、そういうことも踏まえて、学校施設及び跡地の活用の中で検討していけばいいのかなと思いますので、新たに避難所という項目を入れなくても、その後の段階で検討できるのではないかと思うんです。

それと、委員さんのおっしゃる新たな学校の避難所ということですが、市の防災計画の中で、避難所として学校が指定されていますが、基本的に使うのは体育館なんですよ。体育館の面積で人数を割り出して、避難物資とか備蓄していますから、一般の住民が避難するのは体育館です。避難所の場合、避難してきた人たちで避難所運営委員会というのを作って、体育館の中をどう使うとか検討するんですが、いま千葉県の方で、それじゃうまく避難生活ができないということで、常設の避難所運営委員会を作りなさいというような指導があります。茂原市はまだできてませんが、そうすると地元の自治会長さんとか自主防災組織の人たちが主体になって常設の避難所運営委員会を作って、校舎をどう使うかということのを学校側と相談していきます。基本的に体育館なんですけど、体育館だけじゃ対応できないような避難民の方もいますから、学校と相談してどう振り分けたりするかということをやっていきます。

それと、避難所で一番大切なことは、学校を少しでも早く教育の場に戻すことであって、避難者の生活が快適に暮らせるようにすることではないんですよ。災害対策コーディネーターとかボランティアとかの教育でも言われていることで、職員室とかは使わせないで、いかに早く学校を正規の状態に戻すかというのが原則なんです。避難所として学校をどう使うかというのは、自治会と学校側と相談しながらどう運営するかという中で考えていけばいい、再編の中でどの校舎を使うかということは考えなくてもいい、削ってもいいんじゃないかなという意見です。

会長(議長)  
委員

: ありがとうございます。はい。  
: 私の言った災害避難の拠点というのは、学校は子どもたちだけではなく地域の方、近所に住む方にとっての避難場所になっているという意味も入っています。ただ、いまおっしゃられたように学校跡地の活用方法の検討の中で十分カバーできると思うので、それでよいと思います。再編の進め方・その他にあるどの校舎を使うのかということの中に、委員さんがおっしゃられたように、避難所として使える校舎と使えない校舎があると思うので、それも検討してほしいという意味もあるので、避難場所がなくなってしまうからということではなくて、避難場所を別に作る方法があれば(削っても)構わないと思います。

会長(議長)

: はい、ありがとうございます。お聞きのとおり、避難所ということについては委員会の中では議論しなくてもいいのではないかというお話ですが、いかがでしょうか。事務局としてはどうですか。麻生課長。

麻生教育総務課長  
会長(議長)

: 委員さんたちの中で決めていただいて結構です。  
: 先ほどのお話を合わせますと、学校跡地の活用方法の検討の中で十分補えるんじゃないかというようなことでしたが、いかがでしょうか。具体的に避難所という言葉があったほうが良いというご意見もあるかもしれませんが、どうでしょうか。はい。

委員

: 学校跡地の活用方法の検討の中に、地域コミュニティとか避難所というような文言を足せば、そういうことを考えていってくれるんだなと理解していただけたと思います。

会長(議長)

: 「学校跡地の活用方法の検討(地域コミュニティへの配慮、災害時の避難所としての配慮)」のように、一括りにしてはというご意見ですが。はい、中村部長。

中村教育部長

: 今回作成した基本計画案は、先ほど課長から説明したように、今まで皆さんからいただいたご意見をもとに、議論のたたき台としてお示ししてございます。形がないと議論しづらいただろうということで作ったんですが、こちらはまだ練りに練ったというものではございませんので、直すべき点も多いと思います。ご自由にご意見いただいて、なるべく計画案に反映し、次の会議でまた出したいと思います。文章の細かな言い回しや表現ですとかは、お話を伺った中で再度直すこともあるかもしれませんが、予めご

- 了承いただきたいと思います。
- 会長(議長) : わかりました。はい。
- 副会長 : 色々な考えがあっていると思うんですが、避難所はその運営の仕方とかいろんな問題があるかと思っています。なるべく避難所生活を少なくして、子どもたちが勉強する場である元の学校に戻すのも当然のことだと思います。私は避難所という言葉は大事な言葉だし、印象付けるために残してもいいのではないかと思います。
- もう1ついいですか。14ページ(1)の下から2つ目、使用する校舎の検討というのが、どういうことを言われたのかちょっと思い出せないんですけども。
- 会長(議長) : はい。
- 委員 : 学校は耐震(工事)をやっていただきましたけれども、名前を挙げて失礼かもしれないですが、本納小のように山を背負っている、安全なのかどうか私わからないですけども、そういうところにたくさん子どもたちを集めるということ。本納小だとプールも(同敷地内に)なかったりするので、子どもたちと一緒に勉強させるのにふさわしい校舎はどこなのか、ただ単に多い方に寄せるということではなくて、子どもたちの安全を守る校舎ということも検討してほしいという意味で言いました。
- 副会長 : 現在ある建物が、安心して使えるような状態であるのかということですか。
- 委員 : そうですね。多い所の校舎をそのまま使うのではなく、例えば少ない学校だけ校舎は新しいとか、こちらの方が安全だというのであればそちらを使うということも検討していただきたいという意味です。
- 会長(議長) : はい、ありがとうございます。少し考え違いしていたかもしれないんですが、14ページは、ここに出ていることを踏まえて文章を作っていくと理解してよろしいでしょうか。はい、麻生課長。
- 麻生教育総務課長 : それについても委員さんのほうで決めていただいていると思いますが、事務局としては、最初文章にしてみたところ、一般の人が見てわかりにくいかな、箇条書きのほうが頭にスッと入りやすいのかなという印象があってこのように出しました。
- 会長(議長) : その1つ1つについて、先ほど委員さん方のおっしゃった説明みたいなものはどうしますか。
- 麻生教育総務課長 : 確かに、これはどういう意味だという話になってきますので、その辺は肉付けするように検討します。
- 会長(議長) : わかりました。ご意見他にあれば伺います。はい。
- 委員 : 計画案については基本的にこの方向性でいいと思いますが、今後学校とか親御さんとか市民とかに資料を出すと思いますけれども、なぜいま再編をやらなければいけないかという基本的なところを補足するのに、2点ほど気づいたので言います。
- 6ページと7ページに各小中学校の児童数や学級数の推移が、平成28年から24年後の平成52年まで出ています。4月以降の審議会でも出てくるとは思います。現状の小中学校の校舎はかなり老朽化が進んでまして、24年経つと大規模改修とか建替えの問題がありますので、校舎が築何年とかのデータがあれば、パブリックコメントのときに参考になるのではないかなと思います。
- あと、9ページと10ページの学校の位置図ですが、先ほど学区が分かるようにするとおっしゃっていて、それはすごくいいと思います。あと距離について、茂原市の端から端まで、あるいはこの学校からこの学校まで何キロか、縮尺みたいなものを入れてもらおうと、これならバスがいるとかの意見につながります。我々委員だけが見るのではなく一般の市民が見るということを考えて、分厚ければいいというものではないですが色々な情報を出すことには配慮していただければと思います。
- 通学路とかは難しくて次の具体的な話の段階かなと思いますが、安全でないところが多々あります。いまでも危ないところがたくさんあって、統合したら余計危なくなると、一般の住民は間違いなく思います。それをク

リアするのは次の話かもしれないですけども、市民に分かってもらうためにある程度方向性を考えておいていただければと思います。

計画案について基本的にはこれでいいかなと、私は思いました。

会長(議長) : はい、麻生課長。  
麻生教育総務課長 : ありがとうございます。次回1月までに十分考えて出していきたいと思っています。

会長(議長) : 他にご意見のある方。はい。  
委員 : 茂原市内の学校は耐震をやっていただきましたけれども、あれであと何年くらい校舎は使えるようになったんですか。

会長(議長) : はい、麻生課長。  
麻生教育総務課長 : 耐震化は終わったんですが、これで十分ということではなくて、作った年度によって大規模改修が必要なものもあります。いま市の3か年(計画)も作っていて、個々の学校は言えませんが、古いものから中心に大規模改修をやっていかないと長持ちはしないと。

委員 : そういったことも踏まえて、(統合した場合に)どの学校を使うかということも考えていかなければいけないですね。

麻生教育総務課長 : はい、当然そういったことも必要になります。  
委員 : これを機会に新しい校舎を建てるといような計画は、今のところないということでしょうか。あるいは小中一貫にしてとか。

麻生教育総務課長 : 将来的な可能性、選択肢としてはあるのかなと思いますけれども。実施計画の中ではもっと詳しく、校舎とか距離とか通学路とか検討していくことになると思います。

委員 : 何度も見直すとお金がかかってしまうので、やるのであればきちんとやった方がいいということですよ。わかりました。

会長(議長) : はい、ありがとうございます。副会長。  
副会長 : 一番大事なのは、いまの茂原市は小中学校の学級編成ひとつとってみても色々課題があるという現状をまずはっきりとわかってもらうための資料を提供すること。そして、それを解決するにはこういう方法が考えられる、1学級何名とか学級編成の基本に沿うように努力していくにはこういう条件をクリアしないと、我々がいま考えている状態には持っていけないということ。この2ページの目次の中に、それに当てはまる項目がたくさん入っていると思うので、こういうことでいいだろうと思います。

要は書き方です。一般の人に対して、こう考えているということを実にわかってもらうような表現が求められると思います。字数は少なければ少ないほどいいと思うんですよ。長くなると読む人が途中でやめちゃいますから、短い言葉でスパッと言えるような表現が必要だろうと思います。例えば(Ⅲの)教育施策の大綱、小中学校の適正規模、その下に小規模校のメリット・デメリットとあって、学校再編の考え方、再編の基本方針、これもまたすごく大事なことです。目次はこういう作り方でいいのではないかと思います。

参考までに、先行してやっていたところの資料をご覧になったとおっしゃいましたよね。見ていてなるほどと納得した資料であったかと思うんですけど、それと同じじゃダメなんです。茂原市の現状がどう指摘されていて、どう検討するか書かれていることが大事で、そのためにここに集まったメンバーの責任も大きいと私は思っております。以上です。

会長(議長) : はい、ありがとうございます。確認ですが、24ページの各小中学校の概要で、東郷小学校が例で出ていますけれども、これは21校全部出てくるということですよ。(はいとの声)

私の方から質問ですが、資料は全て昭和・平成で出ているけれども、西暦ではダメなんですか。例えば昭和60年から平成2年、平成2年から平成7年、要するに5年おきなんですが、最初は何でかなと思うこともあったので、西暦のほうが読みやすいかもしれないと思いましたので。

委員 : 他にいかがでしょうか。はい。  
委員 : 先ほど副会長から学級編成の基準、12~18学級のお話がありましたが、1クラスあたりの適正数についてはどうなんでしょうか。県は35人や38人



- までということで、それに基づいて学級編成していると思いますが、これは「まで」ですから上限の話ですよね。茂原市としては、地理的条件とか色々なことを勘案して、1学級何人というような適正な児童数という基準はできているのかどうか。例えばそれが30人であれば、学級数が違ってきてしまいます。その辺どうなんでしょうか。
- 会長(議長) : はい、内田教育長。
- 内田教育長 : 説明の仕方は色々ありますが、基本的に教員の配置というのは国や県が基準を持っていると考えてください。それが35人・38人となっています。例えば茂原市が15人と決めたとします。それで30人だったら、千葉県基準だと1学級ですけど、茂原市だと2学級になります。そうすると教員は2人必要ですけど、県は1人しか配置しないわけです。それを茂原が独自にお金を払って教員を1人雇ったとしても、その人はクラスで担任として指導することはできないんですよ。市町村で雇う講師というのがありますが、その人1人でクラスを指導する資格がないんです。ですので、千葉県で決めた基準でやるしかないということです。
- 委員 : 「まで」となっていますが、何人から何人という基準はあるんですか。
- 会長(議長) : はい。
- 委員 : 基準は上限だけ、あくまで「以内」ということです。関連していいですか。前にも申し上げたんですが、1学級の最大人数は38とか35で決まっていて、それに基づいて学級を編制したとき、1学級あたりの人数が10人を下回るようなこともあれば、38人ギリギリまでいる学級も実際にあるわけです。同じ1学級でも、子どもたちにとってはかなり環境が違ってしまいます。決まりはないですけども、茂原市として適正だと思う1クラスあたりの人数、例えば大まかに20人とか25人とかあれば理想的ということは考えた上で、この再編計画を作っていた方がいいと思います。どこの市町村でも上限だけ、何人からという部分は作っていませんが、少なければ少ないほどいいということとは違うので、市で考える適正な規模になるような再編を考えていければいいと思います。
- 会長(議長) : はい、ありがとうございます。どうぞ。
- 副会長 : 国のほうで決めた数字というのは、なかなか変えられません。ディズニールランドがある浦安みたいにお金があるところで、市で特別に雇っているというの聞いたことはありますが、茂原市のいまの財政からして難しいのではないのでしょうか。資料の中に小規模校のメリット・デメリットとあります。学級数が少ないからってそう簡単に成果は上がらない、じゃあ多いから成果が上がらないということでもなくて、子どもたちや担任が一生懸命に頑張ればそれなりの成果が上がると思います。けれども、やっぱり市で決めた適正な規模というのは尊重されていい数字じゃないかなと思います。
- 会長(議長) : はい、ありがとうございます。いかがでしょうか、はい。
- 委員 : ③の学校再編の基本方針、15ページですけど、考え方を踏まえてこの3つに定めますということだと思います。(3)の通学手段の確保、これは必要だと思うんですが、できれば安全性も入れてほしいと思いました。
- 会長(議長) : はい、わかりやすくありがとうございました。先ほど出たんですけども、通学路の整備についてはどこにも謳っていないですよ。それも教育環境のあたりに入れるべきではないのでしょうか。
- 副会長 : いま、安全性というのを(3)の通学手段の確保の中に入れるとおっしゃいました。さっきは避難所のことで話があったので、(2)統合校の環境の充実という中の、施設(校舎・トイレなど)の改修・改築というところと関係するんじゃないかと思いますが、どうでしょうか。
- 委員 : 校舎というより、そこまで行く手段と安全性が、アンケート結果を見ても親が一番気にかけるところなので、そこを強めに言いたいと思いました。校舎を整備するのは当たり前だと住民は思うけど、通学路の安全性が確保されていないくて、今まで住民が色々言っても全然直っていないんですよ。これを機にそれは言うべきだし、遠いところから来ると自転車かバスか、小学生はどうすると、地域住民を理解させるのに今後一番問題として出て

- くると思います。基本方針ですから、ここで安全性という文言をバンと出した方が今後のためにいいのかなと思います。
- 副会長 : 頭に「通学路の」安全性とか入れるともっとわかりやすいですね。
- 会長(議長) : はい、麻生課長。
- 麻生教育総務課長 : ありがとうございます。1月までに修正していきたいと思います。
- 会長(議長) : 他に、はい。
- 委員 : 適正規模の維持のところ、例えば25人くらいの学校に子どもが集まってきて37人とかで止まってしまうと、(受ける側としては)ただ子どもが増えるだけで環境としては良くなるので、38人と決まっているから38でいいのではなく、それを2クラス3クラスに分けられるくらいの生徒の数に調整して統廃合を行ってほしいと思います。
- 適正規模の維持という漠然としていて、今後どういう文章になるかわかりませんが、通学路もそうですけど、ただ38という決められた数に合わせるのではなく、子どもたちにちゃんと目が行き届くクラス運営というか、良い環境が作れるような生徒の数にするということを考えていただきたいと思います。
- 会長(議長) : はい、ありがとうございます。例えば30人学級にするとか、その辺のことを教育長さんに伺ったこともあるのですが、教員の給与は国が3分の1、県が3分の2出していて、県を動かさなくてはいけないのでなかなか大変だということです。
- 委員 : 40人いてくれれば2クラスにできるんですよ。それくらいを目途に、先生も1人増やせるので、35人や38人を超えるような集め方をしてほしいと思います。
- 中村教育部長 : おっしゃることはよくわかるんですが、児童生徒数が緩やかに減少していく中で、1学年40人の時もあるし30人の時もあると思います。25人とか30人位がいいということは本当にわかりますが、それを維持するのは現実的にはすごく難しいです。
- 委員 : それはわかります。ただ、25人を37人にするような増やし方では、増やされる学校の子どもたちにとっては良いことがないと思うので、できれば(35人や38人を)超えるような人数で運営してほしいということです。もちろん将来的に子どもが減っていくのは仕方がないと思いますが、現段階ではなるべくそういう環境が整った状態にしないと意味がないと思います。
- 統合される側の子どもたちの話は出てきますけど、集まってこられる側の子どもたちの気持ちも考えたときに、人が増えたけど先生が増えないという、今まで見てもらえていたものが手薄になったと感じるだろうし、親にとっても、先生が大変になっただけじゃないのかということになってしまいます。単学級の解消、複数学級にできるような統合を考えているということを説明しないと、集められる側の親としても複雑になってしまうのではないかなと思います。
- 会長(議長) : はい、ありがとうございます。文章もなかなか難しいですけども、要は今までの教育環境より悪くなってはいけないということですよね。はい。
- 委員 : 14ページの(2)再編にあたっての配慮で、一番上に地域コミュニティや災害時の避難所があります。
- 市民からの意見とすると、どうしてもそういうことが最優先されてしまいますが、教育長さんもおっしゃったように、子どもの学習する環境を考えての再編なんだということが最初に来るべきだと私は思います。地域コミュニティや避難所も分かるけど、それが学校でなければいけないのかということは別だと思うんです。学校が自分のところからなくなるとか、例えば先ほどの議会の中の意見で地域の拠点というのはもちろんわかりますが、それが先に立ってしまうとなかなか話が進んでいかない。やはり学校再編を考えるにあっては、子どもたちの学習する環境を重点的に考えて進めていくべきでないかなと思っていますので、一番上にこれがあるとどうかなという思いがしました。
- 会長(議長) : いまのご意見でございますが、いかがでしょうか。
- 副会長 : 私はこれからの学校というのは、地域ともしっかりつながりを持たなくては

- いけないと思うんですよね。例えば地震とか色々な災害があったときに、人が大勢集まれるところといったらまず学校です。やはり学校というのはそういう役割を持って誕生・存立している。確かに子どもがそこで学ぶのは当たり前のことですけれども、そういった学校の役割、市民の役割というものをきちんと説明することが必要じゃないかなと思います。
- 会長(議長) : はい。
- 委員 : 教育環境が先ということはとても大事だと思うんですが、1番で学校に関してのことは十分並べていただいているので、市民の皆さんに理解していただくという意味で、地域に対する配慮は一文でも二文でもとっておいた方が良くないかなと思います。
- 会長(議長) : 他にご意見ございませんか。はい。
- 委員 : 3ページの下の方に「将来にわたり適正な規模の児童生徒数を維持し」と書いてありますが、児童生徒数を維持すれば良い教育環境が確保できるのではなくて、その上で学校づくりとか学校を元気にして初めて、より良い教育環境ができるわけですよね。
- それと関連して15ページ、(2)統合校の環境の充実となっていますが、ここは学校の活性化とか学校づくりという文言で、その中で環境の整備だとかが出てくるのではないかと。そして学校づくりだから小中一貫教育の検討とかの項目が出てくるんですよ。環境の充実の中で小中一貫教育の検討というのはちょっと合わないような気がして、3ページと15ページで学校の活性化とか学校づくりとかの文言にした方がいいのかなと思います。
- 会長(議長) : はい、ありがとうございます。「統合校の環境の充実」は、学校づくりに置き換えたほうがいいのかというご意見でした。はい。
- 委員 : 統合校の「教育」環境の充実ではどうですか。
- 会長(議長) : はい、どうぞ。
- 委員 : 統合校だどこかの学校に集まるというイメージになって、小中一貫となるとまた新たな学校ができあがるわけですよね。ここは「統合校」でない方がいいかと思いました。
- 会長(議長) : 統合校という言葉はわかりづらいところがあって、吸収合併もあるし新設もあるから、新しい学校ができるのかという感覚になるかもしれませんよね。統合校という表現でいいのかという疑問もあります。
- 副会長 : 色々なところで学校再編といいながら統廃合という言葉も使っていて、前の学校がなくなる、2つの学校が1つになるので統合された学校という表現でも間違いではないし、癪に障るというほどではないですけどね。
- 大事なのは中身です。それによって子どもがいきいきするとか、今までできなかった野球ができて喜ぶとか、その顔を見るのが楽しみなんですよ。せっかく統合しても前と同じだったら子どもはがっかりします。子どもをどう元気づけるのか、新しい学校を作って教員がどう努力していくのか、一番大事なのは校長、市でいえば市長とか教育長ですから、ハツパかけるころは大いにすればいい。中身がちゃんとしていれば、統合校という書き方でもおかしくはないと思います。
- 会長(議長) : 中村部長。
- 中村教育部長 : たくさん意見いただいて本当にありがたく思います。今日結論を出すのではなくて、色々な意見をいただいたものを参考に私どもで考えて、次回またたたき台として皆さんにお示しいたします。
- 会長(議長) : そうですね。少し急いで結論を出そうとしてしまいましたが、忌憚のない意見を伺いたいということでお願いしたいと思います。はい。
- 委員 : アンケートから見ても、統合するにあたって交通手段とかスクールバスの確保は絶対で、親御さんとか気になるし、そういう最初から突っ込まれるところは載せたほうが良いと思います。スクールバスは市が出してくれるのか、学校までの(乗降)場所とか、もし遅刻した場合にバスは何回出るとかも親は気になるのかなと思うので、そういうところも考えて意見にできればと思います。
- 副会長 : バスも市が運転するのか、お金を何割か集めるのか、細かいことを言えば中身はたくさんあると思います。遠くから通う子どももいてその負担を

- 少しでも少なくする、安心安全に学校の行き帰りができるということで、バスを用意するところはこの近くにもありますよね。ただ遅れた子をまた迎えに行くというのはどうかなど。
- 委員 : 休む人が増えるかもしれないですね。
- 会長(議長) : ありがとうございます。いかがでしょうか。
- 委員 : 質問なんですけれども、14ページ(2)再編にあたっての配慮で、他の計画との整合というのがありますが、これは何でしょうか。
- 会長(議長) : これに対して。はい、麻生課長。
- 麻生教育総務課長 : 茂原市総合計画の後期基本計画があと4年ありまして、実施計画はそれに合わせています。次の総合計画も含めて、これは茂原市の基本的な方針ですので、教育もそれに沿っていかなければならないものです。
- それから、公共施設の総合管理計画というのもあります。これは茂原市全体の施設で老朽化が進んでいて、建物の取り壊しも含めて施設を減らしていった経費を削減するというものです。そういった施設の関係とも合わせるということで、行政側の意見として入れさせていただきました。
- 委員 : これだけポンと出されてちょっとわかりづらかったので、パブコメとかで何のことだと言われるんじゃないかと思いました。
- もう1つ、再編にあたっての配慮に、情報の積極的な提供・共有・可視化、そういう文言を入れてもらえたらと思います。とにかく情報が入ってこないことには不安ですし、情報が一番知りたいことだと思うので、広報やホームページでの情報提供とか、そういうことを入れてはどうかと思いました。
- 会長(議長) : はい、ありがとうございます。委員さんいかがでしょうか。
- 委員 : 私の立場的なところで、ある町の統合の話ですが、保護者的にはかなり期待している部分が多い、子どもたちも少人数だったのが4つ集まるということで非常に期待しているところが多いということを知っています。茂原市でも、規模は違いますが、子どもにも親にも期待できるものにしていく、親の視点というところを大事にしていかなければならないと感じました。
- 会長(議長) : はい、ありがとうございました。文言としてこれを入れてほしいとかはございますか。
- 委員 : 先ほどの15ページの統合校というところですが、全部取って「教育環境の充実」でいいのかなと思いました。
- 会長(議長) : はい、ありがとうございます。いかがですか。
- 委員 : 色々出尽くされていると思いますが、適正規模の維持で、私も学級の在籍人数の検討をお願いしたいと話をしております。単学級の解消だけでなく、単学級でも35人に近いクラスも4人のクラスもありまして、せめて複式学級はどうしても解消したいと思いますので、それも入れて表現していただければいいと思いました。
- 会長(議長) : はい、ありがとうございます。④でも出てくると思いますので、その時にまた伺います。いかがですか。
- 委員 : この文言でおそらく全部言っていると思います。さっき言いかけたんですが、現実はどうなんだ、だからこうするんだと、細かいところまで出すなら出してしまってもいいと思います。
- (小学校で) 仮に1学級30人、全部2クラスとすると、平成37年度3,468名ですから10校になる可能性があるとか、そういうことも踏まえて議論していきたいと思います。
- 会長(議長) : はい、ありがとうございます。副会長。
- 副会長 : 例えば、子どもたちがやろうと思っても人数が少ないとできない競技はいっぱいありますよね。少ない人数の学級で、子どもたちがこんな希望を持っているということ、例えば子どもが書く作文、親の声、毎日様子を見ている教員の声とか、呼びかけるような資料があるといいと思います。要は話しかけたことについてよく話し合ってもらうこと、そういうことは我々がやらなくてもいいというのではなくて、いま切実な気持ちになってこの問題を考えてもらうための呼びかけの文章を作ったらいいかなと。

- 会長(議長) : はい。
- 委員 : 関連して、15ページの基本方針で適正規模の維持とあります。このために再編するというか、2と3はその付随事項で、やはり適正規模を維持するというのがすごく大事なことだと思います。
- 個人的なことを言うと、いま西陵中と富士見中の選択制の問題があって、うちの子は西陵中を選択しました。主人公は子どもですから子どもの意見が一番で、親はそれに従わざるを得ないんですね。西陵中に行かずに富士見に行った子のほとんどは、部活ができないからという理由です。
- 私前回、子どもたちが学ぼうとしても学ぶ機会が与えられないということを行いました。サッカーとか野球がやりたかったのに、ないから渋々ソフトテニス部に入るとか、スポーツでもそうです。やはり教育というのは、勉強にしてもスポーツにしても部活にしても、子どもたちに平等な機会を与えるということ。勉強は大規模校小規模校のメリット・デメリットはあって、逆に小規模クラスのほうが勉強の点では良かったりして、西陵中はみんなすごく優秀です。でも教育はそれだけではなくて、学ぶ面と心を鍛える体を鍛える、この三本柱の体を鍛える機会を奪っているという部分で、ある程度の規模じゃないと部活もできない、だから教育的な立場から適正規模の維持を図る、それには学校再編があるというロジックが、住民と話したときに説得する材料として必要だと思うんですよ。
- それで、7ページの学校運営の現状は字でしか書いていないんですが、前回資料で各小中学校の部活動の活動状況、何と何を活動しているというものがありました。あれは子どもが学校に行っていない人はほとんど知らないと思います。部活が3つしかないとか、結構な数の学校で部活動に支障をきたしているという現状を、数字とかビジュアルであげると説得力があります。勉強は逆に小規模のほうがいいという親が多いですから、やはりスポーツの面も必要だと思うんです。実は今年緑ヶ丘小から大多数が富士見中に行っちゃって、先ほど言ったようにほとんどが部活ができないからという理由です。野球やりたいサッカーやりたいのにな、子どもたちに機会を与えられないというのは、全国的に統合しているということにもつながる感じがします。
- 部活動ができないというのは子どもたちにとっては大きな問題で、勉強よりもそっちを優先しているケースもあるので、7ページに資料としてプラスしてはどうでしょうか。そうするとパブリックコメントでも、色々な情報やデータを与えて市民に判断してもらうという、いい情報になると思います。
- 会長(議長) : 貴重なご意見ありがとうございます。
- 副会長 : いまのご意見につなげて、単学級の場合には、小学校なら1年から6年まで子どもの組織がいつも同じになります。だから全校の子どもが情報とか家庭のこととか全部知っています。そういう中で生活や勉強をして遊んでいくと、他と違うルールができあがっていくこともあると思うし、子どもが育つうえではやはりある程度の人数で育っていかないと、育ちが遅くなるんじゃないかなと私は思います。
- 同じ先生に教わるのももちろんいいですし、中学3年間で担任が何回も変わるというのも、教師も色々なタイプがいるからいろんな先生に教わるというのもいいと思うんです。子どもの数が減って単学級で困っているのは、クラブのことだけではなく、いろんなところで子どもたちなりに困っているところがあると思いますので、それを大人の立場で何とかしてあげなくちゃいけないというのが、この会合だと思うんです。
- 会長(議長) : はい、ありがとうございます。時間がだいぶ過ぎてまいりましたが、まだある方はいらっしゃいませんか。
- それでは次に、意見交換シートの裏面になりますが、④学校規模ごとの基本的な方向性について、事務局より説明を求めます。麻生課長。
- 麻生教育総務課長 : 資料2の16ページでは、今まで審議していただきました基本方針を受けて、学校規模ごとの基本的な方向性を定めようとするものです。この方向性を来年度の実施計画につなげていきたいという考えでありますので、よ

- ろしくお願いいたします。
- 会長(議長) : ありがとうございます。それでは先ほどと同様に、意見のまとまった方から順次挙手をお願いいたします。なお、紙面に書いておられますとおり、個々の学校名を意識したものではありませんのでお願い申し上げます。
- 麻生教育総務課長 : いま会長から学校名の話がありましたけれども、ここに学校名は入れていないのですが、現状の学級と突き合わせれば学校名は当然わかります。基本計画であるということを考え、あえて名前は入れなかったんですが、もし入れたほうが良いという意見があれば、それは委員の皆さまにお任せしたいと思います。
- 会長(議長) : わかりました、ありがとうございます。ではまずそのことについて皆さまのご意見をお伺いいたします。
- 副会長 : 書かなくても今までの資料でわかりますし、あえて入れなくてもいいのではないのでしょうか。
- 委員 : あえてこの時点では書かない方がいいのでは。
- 会長(議長) : そういう意見が多いようですので、入れないようにいたしましょうか。ではこの基本的な方向性でございますが、いかがでしょうか。はい。
- 委員 : 中学校で1～2学級というのは、1学年がないということですか。
- 麻生教育総務課長 : 複式学級が存在するという事です。いま現在の中学校ではありませんが、今後可能性としてはありえます。
- 委員 : ないと私は理解していますが、そういう場合には統廃合を検討する方向で進めるという意見です。小学校も1～5学級というように、複式学級が出た場合にはやはり再編を検討すべきだというような意見でいます。とりあえずそこまでにします。
- 会長(議長) : はい。
- 委員 : 国の基準にある程度基づき再編をしようとしていて、本来であれば一気に全部基準に合わせるようにやっつけてしまえばいいんでしょうが、なかなかそれはできないということで、市町村で決めていかなければならないということであります。
- 文科省のほうで学校規模の標準を下回る場合の対応の目安というのが出ていて、それぞれの市町村に投げられてはいますけれども、ほとんどこれが基本的な方向性になるんじゃないかと思います。
- 会長(議長) : はい、麻生課長。
- 麻生教育総務課長 : いま委員さんからおっしゃっていただきましたが、第1回審議会の資料4で、文科省が定めた適正規模がございます。お持ちであれば11ページをご覧くださいと思います。
- 会長(議長) : 「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」ですね。
- 麻生教育総務課長 : ここに、学校規模の標準を下回る場合の対応の目安がございます。例として、小学校の1～5学級、複式学級が存在する規模について読みます。「おおむね、複式学級が存在する学校規模。学校全体の児童数や指導方法等にもよるが、一般に教育上の課題が極めて大きいため、学校統合等により適正規模に近づけることの適否を速やかに検討する必要がある。地理的条件等により統合困難な事情がある場合は、小規模校のメリットを最大限生かす方策や、小規模校のデメリットの解消策や緩和策を積極的に検討・実施する必要がある」と、国で定めた目安がございます。参考にさせていただければと思います。
- 会長(議長) : はい、ありがとうございます。いかがでしょうか。はい。
- 委員 : (小学校の)1～5学級の場合は、複式をやっているもので、速やかに統廃合を行う。1クラス3人とか7人とかでは、国の方針にもそぐわないし、30人が適正として3人ですから、適正云々ではなく、この規模は統廃合やむなしです。子どもたちがかわいそうになります。さっきから話に出ているように、やはり子どもたちはみんなで騒いだり勉強したりするのが一番いいと思うので。
- それと、副会長さんが言われたとおり、統合すると先生が、特に校長が大変になりますが、そこは頑張ってください、この規模は統合ありきということで進めていただければいいのかなと思います。
- それから(全学年)1クラスのところは、将来的には複式学級になるかもわからないので、そういうことを視野に入れて検討していくということで

- お願いしたいと思います。
- 会長(議長) : はい、ありがとうございます。いま委員さんから「速やかに」という言葉ができました。いかがでしょうか。
- 委員 : 私もこの分け方のおりでいいと思います。優先順位を付けるのであれば、やはり複式学級が存在するところは速やかに検討し、そうなりそうな児童数の学校も続けて検討すべきだと思います。規模は文科省の手引で、中身に関しては生徒数に応じて順位を付けていくべきかなと思います。
- 会長(議長) : はい、ありがとうございます。他にご意見を伺います。
- 委員 : 文科省では中学校の適正規模が9～18学級となっていて、茂原市は少し緩くしていると聞いたような記憶があるんですが、どうなんでしょうか。
- 麻生教育総務課長 : 文科省は小中とも12～18学級です。茂原市は中学校を少し緩和して9～18としています。
- 委員 : 緩和して9～18ということですね。国の12というのは厳しいですね。わかりました、であればこれで良いと思います。
- 会長(議長) : 私からの意見ですが、前も小学校と中学校は分けて考えた方がいいと申し上げたんですけれども、中学校で例えば4～5学級の場合、地域性を鑑みて検討するということがあってもいいんじゃないかと思います。そうしたら吸収合併なり統合なりということではなくて、ある程度地域を考えて、残した方がいいところは残した方がいいんじゃないかなと思ったんですが、どうでしょうか。はい。
- 委員 : 9～18にすると、茂原市の中心部の中学校しか残らなくなりませんか。コンパクトシティを目指しているのかもしれないですけど、周辺部は小学校も中学校もなくなって、茂原市の中心に集める、集まらざるをえないとなってしまうから、地域を鑑みてというのも必要ではないかと。
- 会長(議長) : これでいくと、固有名詞を出しちゃいますけど、本納中だっただけなくなる可能性があるんですよ。だけど地域的に見て、本納中はあった方がいいと単純に思いますので、発言させてもらいました。はい。
- 麻生教育総務課長 : いま周辺がなくなっちゃうという話がありました。例えば地域によってはその地域性を鑑みて、全く学校がなくなると困りますから、先ほど話した小中一貫ということも1つの選択肢としてあるのかなと思います。
- 委員 : 市原は小中一貫校をやっていますよね。市原は広いので、たぶん学校がなくなると中心部まで30キロとか行かなくちゃいけないから、小中一貫校で特別にやっていますよね。そういう事例も色々紹介していただければ。
- 委員 : いまおっしゃった市原では、加茂学園が小中一貫です。南に下ると鴨川の長狭学園もそうです。事務局に提案ですけども、小中一貫校の導入効果とかを調査してもよろしいのではないのでしょうか。
- 副会長 : 教育というのは1年や2年では(効果は)出ないと思います。医者みたいに注射して3日後に治るといえるのはわけが違いますので。  
ただ、私は地域性を考えるというのは大事なことだと思います。茂原市は市原みたいに広くありませんから条件は違いますが、確かにそれぞれの歴史もあるでしょう。昔は村の学校といって、村の人たちがお金を出し合って先生を雇った、お金のあるところは何人も雇えた時代もありました。でも今は人数によって国の法律で決められていますから、そういうわけにはいかない。長い歴史をたどっていけば、地域性というのはとても大事なことだというのがよくわかります。もう少し考えたらいかがですか。
- 会長(議長) : はい、ありがとうございます。他に言っておきたいことはございませんでしょうか。小中一貫校については検討するくらいの考えですか。はい。
- 麻生教育総務課長 : メリット・デメリットも含めて調査中です。検討するとなれば実施計画の中で明示したいと思います。
- 会長(議長) : いかがでしょうか。ここに書いてある感じで進めていってみますか。
- 委員 : 中学校のほうは地域性を考えるということでもよろしいですか。
- 麻生教育総務課長 : いまいくつかご意見いただきました。文科省の方針に沿っていいんじゃないかというご意見が何人かから出ましたので、それをもとに、中学校は人数または学級数に応じて、地域性を鑑みてということを入れて作ってみたいと思います。
- 会長(議長) : 他に何か付け加えることは。はい。
- 委員 : 大したことではないですが、中学校の4～5学級のところで、児童数となっていますが、中学校なので生徒数でお願いします。
- 会長(議長) : そのようにお直しく下さい。いかがでしょうか。

- 委員 : まだ先の話かと思えますけれども、小中一貫の検討はこの再編計画と同時に進んでいただければいいですね。どこかの学校に統合するのか、そうじゃなくてこの地域に小中一貫を建てるのか、同時に考えてどちらかを選ばないと、例えば改修して統合したけどやはり小中一貫を建てましょうとなったのでは無駄になってしまいます。
- 今回初めて小中一貫という言葉が出て、これから調査ということなのでまだ時間がかかりそうですけど、この会議の中で、どこかの学校を使って統合するのか、小中一貫を建てるのか、どちらにするのかということは決めた方がいいですね。名前出しちゃいますけど本納地区は小中一貫を建てたほうがいいという可能性はありますし、そういったことを並行して考えていくのかを聞いておきたいと思います。
- 会長(議長) : はい、中村部長。
- 中村教育部長 : いま委員さんのおっしゃったことは、実施計画の最たるところだと思います。私どもとすると、現状からして統廃合・再編が必要だろうと、一刻も早く進めたいということでこの検討を始めていて、来年度の実施計画についてはなるべく具体的にしたい。実施計画では、ここここは統合を速やかにやらなきゃいけない、目標年度は何年ということになりますが、先ほどおっしゃった建築年数とか老朽化の問題もありますから、ゆくゆくは小中一貫校にするというような方向性まで、実施計画では踏み込みたいと思うんです。
- 実際に統廃合することを目標に計画を作るわけですから、基本計画でどこまで踏み込んで記述するのかというのが非常に大事になります。基本的な方向性は文科省の手引に沿った形にするんですが、これに当てはめると現状の学校はこうするという答えが導き出せますよね。それがこの実施計画につながると思うんですよ。実際に皆さんに再編の必要性を理解していただいて、再編を実際に動かすような計画にしていかなければならない。そのために基本計画でどこまで踏み込むのかというご意見もいただいたうえで作っていきたいと思います。委員さんがいま言ったようなことも、実施計画には当然入れていきたくて考えております。
- 委員 : この審議会では教育の観点から色々意見を出していますが、総合計画とかは茂原市として最終的に決定されますよね。これとは別の「公共施設のあり方検討委員会」で、建築年数とか規模とか距離によって、理論上はここここをくっ付けるのがいいのではないかということもやったんですが、そこで小中一貫校という話も出ました。東京都とかでも成功している例とかあると。
- お金がなくても立派な施設があるのであればそこを利用する、色々な部署で色々な意見があって、最終的には教育の観点や財政の観点とかまとめて茂原市が決めると思うんですが、その検討委員会でも小中一貫校はありという意見が出ていましたので、私も可能性として出すべきだと思います。具体的にできるかどうか、どうするかはまだわかりませんが、そこは検討課題というか、他の市町村でもやっていますので研究の価値はあると思います。
- 会長(議長) : はい、ありがとうございます。皆様方のご意見を伺うことができました。本日の内容を事務局でまとめていただきまして、次回会議で基本計画案をまとめてまいりたいと思います。
- また、本日の基本計画案につきましては、次回も議題になりますので、各自次回までじっくりご確認をお願いしたいと思います。
- 副会長 : 1つお願いがございます。冒頭にご紹介があった千葉日報の報道記事ですが、できればこういう会議の時にそのコピーを回してもらいたいと思います。ここの議論に関わる記事ですから。
- 内田教育長 : 会長さんも言っていましたけど、驚きなのが2008年に新校舎を建てて、それを使わないで捨てちゃうんですね。
- 副会長 : そういう判断をちゃんとしたということですね。
- 会長(議長) : 以上で本日の議題はすべて終了いたしました。これをもって議長の任を解かせて頂きます。長時間にわたりましてご協力ありがとうございました。
- 豊田教育部次長 : 会長、どうもありがとうございました。
- その他でございますが、皆さまに配付した前回会議録について、訂正等ございますでしょうか。



(前回会議録の校正)

その他、委員の皆さまから何かございますか。

なければ、事務局から。

麻生教育総務課長 : 次回の会議日程は、年が明けて1月19日(木曜日)となっております。次回は、パブリックコメントにかける基本計画の素案について確定する予定です。開催通知と会議資料は、1月13日までに発送できるよう準備を進めてまいりますので、ご確認をお願いいたします。

また、先ほど校正した前回会議録の個人名を抜いたものと、本日の会議資料は、近日中にホームページに掲載させていただきます。以上です。

豊田教育部次長 : それでは長時間にわたり慎重審議誠にありがとうございました。

以上をもちまして、第3回茂原市学校再編計画審議会を閉会いたします。お疲れさまでした。